

組合員の作品

ちぎり絵
守口さつき支部
橋本みどり



写真

本部組織部 山川 清



写真

ホームさつき 平岡 賢明

ホームさつきのシンボルツリー、
花みずきも大きくなりました



短歌

立春となりたる川辺水仙の仄かな香り風にのりくる

門真中央支部

兵頭 克己

水仙の香りただよう公園に朝日あびつつ歩をゆるめ行く

みい支部

稲原 一枝

わが腕に抱かれ父は初雪に莞爾と笑みて息絶えにけり

成田支部

竹内 平

峡崖の道のかたへの陽だまりに短き土筆屈まりて摘む

みい西支部

堀 正子

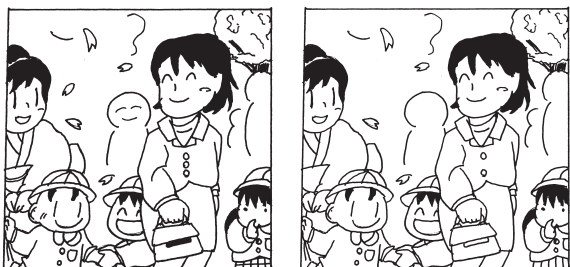


水彩画

守口東支部 橋本 恵子

まちがいがさし

2つの絵でちがう所は
7カ所。どこでしょう？



「答え」は今月号のどこかにあります

あが町探訪

「戦争放棄」を提案した幣原喜重郎

守口さつき支部 酒井 則行

喜重郎は1872年（明治5年）、現門真市一番町、幣原家の4人兄弟の次男として生まれました。東京帝国大学を卒業後、外交官として仁川を皮切りにロンドン等へ赴任、1915年（大正4年）外務次官となり中国内で南北政府がせめぎ合う中、干渉しないという方針を打ち立てていきました。大正10年、ワシントン軍縮会議で活躍。1924年（大正13年）、外相として入閣、その後別の政党内閣でも信頼され、四代（加藤内閣、若槻内閣、濱口内閣。第二次若槻内閣）にわたって外相を務めました。この当時世界から、「幣原外交」と称される協調外交を推進。第二次若槻内閣時、軍部などから軟弱外交として攻撃を受け一線から退きました。

戦後1945年10月、首相の大命を受けました。翌年1月、原爆ができた今、戦争になれば世界が壊滅する。外交経験から軍縮といってもとてもできるものではない。戦争を防ぐには武器を完全に無くさなければならぬ。日本から戦争をしない、武器を持たないと憲法で宣言することで世界の模範となり天皇制維持に世界も納得するだろうと、「戦争放棄」をマッカーサーに提案しました。



幣原喜重郎

アメリカは、日本を味方につける意図でソ連などに口出しされぬうちに憲法改正に持ち込もうと、10月以来研究してきた明治憲法の内容や鈴木安蔵らの憲法草案などを参考に8日間で憲法草案を完成させ、日本政府に検討を要求。幣原内閣は、天皇にも報告してGHQ案をもとに憲法改正案を決定。喜重郎は枢密院で、「戦争放棄は正義の大道」と述べ、各地で「我国を他国の侵略より救う自衛施設は、徹頭徹尾正義の力である」と説いて現憲法実現につないでいったのです。

《参考文献》

小西豊治『憲法「押しつけ」論の幻想』講談社現代新書、2006年
堀尾輝久「憲法九条と幣原喜重郎」月刊『世界』2016年5月号、岩波書店
幣原平和財団編・刊『幣原喜重郎』1950年

【編集委員会から】

14回にわたり、酒井則行氏に「わが町探訪」を執筆いただきました。北河内に長く住んでいても知らなかったわが町の歴史の重みを感じることができました。誠に有難ございました。

6月1日号から、南貢氏の「歌ものがたり」を連載いたします。ご期待下さい。